

米国の選挙はオープンアクセス論文法案を遅らせている (Mark Chillingworth) 上院議会選挙は連邦政府[助成]研究論文法案を遅らせている

Chillingworth, Mark. US elections delay open access articles bill.

Information World Review 30 Nov 2006. <<http://www.iwr.co.uk/2170271>>

米国の中間選挙は、連邦政府研究パブリック・アクセス法 (Federal Research Public Access Act) の導入を遅らせ、2007年の米国上院議会に再提出せざるを得ない状況で、法案を支持する声がますます大きくなる一方だ。

11月の米上下両院の選挙は、現職の共和党議員を上回って民主党が納得の行く勝利を収めた。連邦政府研究パブリック・アクセス法 (FRPAA: Federal Research Public Access Act) は超党派提案であり、民主党の Joseph Lieberman および共和党の John Cornyn¹⁾ が支持している。通過すれば、年間1億ドルの助成を行っている連邦機関は研究論文—それらは査読雑誌 (peer-reviewed journals) に出版されたものだが—6ヶ月以内に無料でオンライン利用ができるように法案は請求している。

「法案を再提出しなければならないようだ」と SPARC (Scholarly Publishing and Academic Resource Coalition)²⁾の事務局長 Heather Joseph は述べた。

FRPAA は、本年初めに議会で審議されて以来、ますます関心を引きつけている。「学者と公衆は本案の正しい側にいる。FRPAA は法律になるべきだ。」と公立大学・土地贈与大学協議会 (NASULGC: National Association of State Universities and Land Grant Colleges)⁴⁾学務担当副会長 David Shulenburg は語った。彼は要求を補足している。「私たちは、現在、遅延期間の後に無料で出版論文が利用できることを自発的に認めている雑誌について重要な経験がある...購読ベースの雑誌の絶望的な破綻を示すような証拠はない。」Schulenburg は、コンテンツを無料で利用できるように進んで行っている、そのような雑誌によって購読ベースの雑誌が破綻を見ることはないと言った。

北米研究図書館協会 (ARL: Association of Research Libraries)⁴⁾の事務局長 Duane Webster は、「研究図書館コミュニティは FRPAA の通過を精力的に主張している。この立法は広範に必要とされる情報資源へのアクセスの拡充を目指した重要な一歩である。」と述べた。

「法案の共同提案者がさらに支援しようとする限り、法案を再提出するだけでいいのだ」と Joseph は、手続きの進め方について意見を述べた。

リンク先

1) <http://cornyn.senate.gov/>

2) <http://www.arl.org/SPARC/>

3) <http://www.nasulgc.org/>

4) <http://www.arl.org/>